

令和8年2月27日受付	議長	局長	次長	係
肝付町議会事務局 第81号	電子	電子	電子	電子

総務・文教委員会会議録

【総務・文教委員会】

1. 日 時 令和8年2月20日（金） 午前9時55分開議 ～ 午後16時00分散会
2. 場 所 議員控室
3. 出席委員 前原・富永・松元・宮後・恒吉・柳・有留 （恒吉：早退15：10）
4. 事務局職員 西迫
5. 説明員 教育長・教育総務課長・給食センター所長・給食センター次長・総務課長
6. 参考人 なし
7. 会議に付した事件

(1) 継続調査について

①町内の学校の現状について

- ・高山地区米飯給食の状況
- ・委員会現地調査総括における質疑への対応状況

②財政の健全化について

- ・公用車の計画的運用に関する進捗状況
- ・超過勤務削減(業務の簡素化)状況
- ・課のあり方
- ・公共施設のあり方

③防災対策について

- ・自主防災組織と個別避難計画の進捗状況

(2) その他

1. 協議の概要

(1) 継続調査について

①町内の学校の現状について

- **働き方改革:** 学校現場の働き方改革への対応指針を作成し、超過勤務を月平均30時間以内にす
るなどの取り組みが行われることに対し、超過勤務手当の発生有無や取り組み内容の各自治体
での裁量について質疑があった。
- **学校の統廃合、再編:** 波野地区の小中再編（高山小中へ）に伴う制服代の補助や加配教員に対
する要望が出された。また、国見地区など統廃合を望まない地区を含め、保護者に対し児童数
推移や教員配置見込みなどの情報を継続的に提供し、定期的な意見交換を行うべきとの意見が
出された。宮富小学校の老朽化に伴う統廃合の検討や、浮いた予算の地域への再投資を求める
声もあった。
- **アリーナへの学校機能移転:** 内之浦中学校の銀河アリーナへの移転検討に対し、津波想定区域
である懸念や、長期的視野に基づく義務教育学校化との比較検討を求める意見が出された。

- **給食センターの整備:** 令和8年度予算での給食センター米飯施設整備計画に関し、中古設備でなく新品（関連工事含め約7,000万円）を導入することを決定した経緯や、既存設備の改修状況について質疑が交わされた。
- **学校施設の整備:** 高山中学校グラウンド整備、宮富小学校及び国見小学校の防犯対策、特別教室への空調設備整備などは、費用対効果や優先順位の観点から予算化が見送られている現状が指摘された。

②財政の健全化について

- **公共施設のあり方:** 利用率の低い施設の統廃合や廃止について、計画に謳われている庁内横断的な検討組織が未設置であることに批判が相次いだ。建物の安価な売却、集落への無償譲渡、営利利用の料金見直しのほか、政策サポーター制度の活用による検討などが提案された。
- **公用車の運用:** 公用車の微減（148台から131台）が報告されたが、各課への配置を1台に絞り、他の車の共通管理化や、購入とリースとの比較検討を求める意見が出された。
- **超過勤務削減:** デジタル化（クロムブック導入等）による削減効果の不透明さや、特定個人の残業時間の突出が指摘され、業務の平準化や組織体制の見直しが求められた。
- **課のあり方:** 課の数（※条例上27課、※教育委員会7課）や、5級職員（参事級）の多さが指摘され、適正な組織体制への見直しと人員・給与費の削減が求められた。

③防災対策について

- **自主防災組織と個別避難計画:** 自主防災組織は組織率が高いものの実働可能な組織が少ない点や、個別避難計画の作成完了の目処が立っていない現状が報告された。
- **防災体制の強化:** 福祉避難所の充実、自宅の耐震補強の啓発、避難所名簿の消防団との共有等の要望が出された。

その他

- 参議院選挙にかかる入場券の再郵送費用に対する国負担の可否についての質疑や、若い世代の業務遂行能力に関する問題発生時の検証委員会設置と再発防止の必要性が指摘された。

2. 協議の結果

(1) 継続調査について

①町内の学校の現状について

- 学校の働き方改革への対応指針を4月1日から施行し、ホームページ等で公表する。
- 波野地区の学校再編（令和9年4月方向）に向け、3月10日に住民対象の経過報告及び説明会を行う。
- 内之浦中学校のアリーナ集約構想については、令和8年度に住民等への説明会を実施し、義務教育学校化も含めた比較検討を行う。
- 給食センターの米飯施設整備は、令和8年度に工事を行い、令和9年度からの供用開始を目指す。令和8年度は引き続き現業者への委託を予定する。
- 学校の統廃合等に関しては、保護者との定期的な意見交換の場を設け、継続的な情報提供を行う。

②財政の健全化について

- 公共施設の検討に向けた専門部署や横断的委員会の設置は、現状予定しない。
- 緊急車両を除くすべての公用車を、予約システムで管理化することを検討する。
- 課の削減については、令和8年度は予定していないが、令和9年度以降の削減に向けて取り組む。

③防災対策について

- 4月から防災管理官1名を採用する見込みであり、町の方針決定や災害対策本部の運営補助等を担わせる。

3. まとめ

本委員会を通じて、教育、財政、防災の各分野における町の現状と今後の方向性が確認されました。教育分野では、学校現場の働き方改革指針の施行、波野地区の学校再編方針に基づく住民説明の実

施、給食センター米飯設備の令和9年度供用開始に向けた整備推進を決定しました。また、学校のあり方については唐突感を避けるため、保護者に対する継続的な情報提供と意見交換を実施していく方針が確認されました。財政・行政改革分野では、公共施設管理体制の横断的組織の立ち上げは見送られたものの、公用車の予約システムを通じた管理の検討や、令和9年度以降を見据えた行政組織（課）の統廃合の検討を進めることが確認されました。防災分野では、令和8年4月から新たに防災管理官を採用し、町の防災対応力や災害対策本部の運営体制を強化することが決定事項として報告されました。

総務・文教委員長 前原 和幸



令和8年3月10日受付	議長	局長	次長	係
肝付町議会事務局 第111号	電子	電子	電子	電子

総務・文教委員会会議録

【総務・文教委員会】

1. 日 時 令和8年3月10日（火） 午前9時55分開議 ～ 午前10時40分散会
2. 場 所 議員控室
3. 出席委員 前原・富永・松元・宮後・恒吉・柳・有留
4. 事務局職員 西森
5. 説明員 なし
6. 参考人 なし
7. 会議に付した事件
 - (1) 所管事務調査報告書について
 - (2) 閉会中の継続調査について
 - (3) その他

1. 協議の概要

(1) 所管事務調査報告書について

・記載内容の修正

波野地区の学校再編に関する説明会の日付（3月10日）については、日程変更の可能性があるため、日付の記載を削除するか表現を調整する。また、執行部の方向性だけでなく、議会側がどのように提案していくかという視点を盛り込むよう意見が出された。

・2年間の総括としての位置づけ

今回の報告書は、防災職員の処遇改善、ライフジャケット条例の提案、臓器移植に関する意見書、学校給食の米飯設備の整備推進など、これまでの委員会活動の集大成としてまとめることになった。

・今後の手順

日程上の都合により、委員会を再度開くことは難しいため、報告書の最終確認および承認はチャットを通じて行うことと決定。

(2) 閉会中の継続調査について

・継続調査項目を設定する目的と必要性

現在の議員の任期満了（4月30日）までに緊急の事態が発生した場合、閉会中の継続調査項目としてあらかじめ挙げていない事案については、委員会を招集・開催することができない仕組みであることが確認された。そのため、継続調査の項目を設定しておく必要性が共有された。

・調査項目の検討

具体的な項目について委員間で協議が行われ、以下の2つのテーマが提案された。

1. **財政の健全化**: 4月1日から新年度予算の執行が始まるため、予算の健全な執行を見守る観点から提案された。
2. **教育行政**: 波野地区における学校の動きなど、町内の学校の現状や今後のあり方に対応するため提案された。

・ **決定事項**

協議の結果、「教育行政（町内の学校の現状など）」と「財政の健全化」の2本立てで閉会中の継続調査項目として設定し、議会へ報告することが決定された。

(3) その他

・ **各委員からの振り返り**

最後に各委員から、この2年間の委員会活動に関する挨拶が行われた。厳しい財政状況や公共施設のマネジメント、教育行政に対する議論など、内容の濃い活動ができた多くの委員が評価した。

・ **委員長の所感と反省**

委員長からは、非常に恵まれたメンバーであったため、もっと委員会の開催回数を増やし、さらに深い提案や議論をすべきだったという反省点が述べられた。

・ **議会改革と今後の展望**

委員会の終盤では、若い世代の政治参加を促すために、通年議会の導入や、夜間・休日を利用した議会開催など、今後の議会改革の必要性について意見交換が行われた。

2. まとめ

これまでの調査報告書の作成方針や、学校再編、財政健全化といった重要課題への取り組みを振り返った。議論の中では、次期への継続調査事項の選定についても詳細に話し合われた。最後には各委員が二年間の活動を総括し、教育行政への厳しい視点や議会改革への意欲など、それぞれの思いを語られた。全体を通して、地域課題に対する議員たちの真摯な姿勢と、委員会内の強い信頼感が示された。

以上をもって、総務・文教委員会を閉会した。

総務・文教委員長 前原 和幸

